

# 桜谷小学校 感染症予防ガイドライン R3.4.8 改訂版

新型コロナウイルス感染症の新規感染者が再び増え始めています。ところが「慣れ」による気の緩みや「マスク疲れ」「コロナ疲れ」なども、心配されるところです。感染症対策においては、一人ひとりが基本的な感染症対策を徹底していくことが重要だといわれています。ご家庭の中でも、引き続き、体調管理やマスクの着用などのご協力をお願いします。

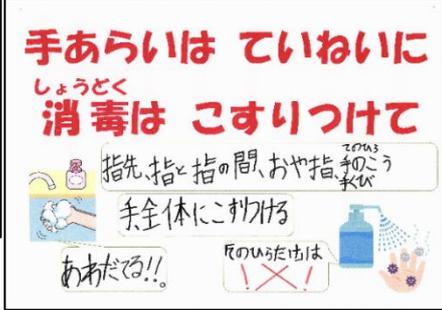
基本的な感染症対策をていねいに！  
ご協力をお願いします。

## 登校前の体調チェック

- 1つでも当てはまる場合は欠席を
- 平熱を超える発熱
  - せきやのどの痛みなどの風邪の症状
  - だるさや息苦しさ
  - 臭覚や味覚の異常
  - 体が重く感じる、疲れやすいなど



令和2年度健康・給食委員会作成



**規則正しい生活で 免疫力を高めよう**

- ・早ね・早おき。十分な睡眠時間を。
- ・朝ごはんをしっかりと。
- ・ウイルスに負けない体力づくりを。

## 手洗い

正しいやり方をもう一度見直そう

**正しい手の洗い方**

手洗いの前に  
・爪は短く切っておきましょう  
・時計や指輪は外しておきましょう

- 1 流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。
- 2 手の甲をのぼすようにこすります。
- 3 指先・爪の間を念入りにこすります。
- 4 指の間を洗います。
- 5 親指と手のひらをねじり洗います。
- 6 手首も忘れずに洗います。

- ・登校後すぐ、外から教室等に入る時や、トイレの後、給食の前後など、こまめに手を洗う。
- ・手を拭くハンカチやタオルは個人持ち (人に借りない)。

## 手洗いの、5つのタイミング



## マスク

**だれでも いつでも ただ 正しくマスク!**

話すときはマスク!

はなからあごまでおおう。

外出のときもマスク!

## 正しいマスクの着用



マスクを着用すると、吸い込むウイルスを減らす効果と、ウイルス拡散を抑える効果の両方を得られることがわかっています。食べ終わったらすぐマスク、運動し終わったらすぐマスクを。

## 熱中症を予防するために

- ① 徒歩での登下校時・体育の授業、激しい運動
  - ・熱中症のリスクが高いときはマスクをはずす。
  - ・希望する児童はつけてもよい。
  - ・バス利用時は必ずマスクをつける。
- ② マスクをはずしたときの注意
  - ・登下校のときは間隔を十分取る(1m以上)。
  - ・近い距離での会話、向き合っている会話をしない。
    - ・話をするとき、集まるときはマスクをつける。
- ③ 近づいて話すとき、歌を歌うとき、給食当番のときは、マスクとフェイスシールドをつける。
- ④ 徒歩での登下校時に日傘を使用してもよい(雨傘でも可)

がっこう ゆう がえ たいいく じかん  
学校の行き帰りや体育の時間など、  
**暑いときやムシムシするときはマスクをはずそう。**  
◇話をするとき、集まるときは**マスク**をつけよう。  
◇近づいて話すとき、歌を歌うとき、給食当番のときは  
**マスクとフェイスシールド**をつけよう。



マスクがないときは  
2mあけて



近づいて話すとき、歌を歌うとき、  
給食当番のときは  
マスクとフェイスシールドを

## 三密防止

- ・換気 ①換気扇を回す。  
②窓を少し開けて常に換気をする。  
③中休み・昼休みは窓を大きく開ける(5分間)。
- ・給食でマスクを外したときに子どもと教師が対面になるため、**シールドを設置**します。
- ・バスの中では、マスクを正しく着用し、会話を控えるように指導します。



## 毎日の持ち物

- ・健康観察表(水色の紙)・清潔なハンカチ・タオル・ティッシュ
- ・マスク・予備のマスク
- ・マスクをはずしたときに入れる清潔なビニール袋や布袋
- ・三角巾(給食用)・水とう



## 感染症教育

- 子どもが自分で考えて予防できるように、今年度も、学年に応じ感染が起こりやすい環境や感染防止の方法について指導します。児童会委員会などの子どもの力も借りながら、子ども同士で声を掛け合って、感染防止の行動が取れるように働きかけていきます。
- 感染に対する不安や恐怖心が感染者に対する差別や偏見といった間違った形で現れてしまうことが心配されます。**発症者や濃厚接触者、医療従事者への差別や偏見、いじめなどにつながらないよう**人権教育を行います。

## 地域で感染経路の不明な感染者が増えてきたら

ご協力をお願いします!



- ・家庭科の調理実習や音楽科で友達と音楽表現を工夫する活動など学校の授業で取り扱うことが望ましいとされている学習活動であっても、感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高いものは、状況によっては行わないようにする。
- ・毎日の児童の健康観察はもちろんのこと、例えば、家族に発熱、咳などの症状がある場合には児童の登校を控える。
- ・休日の不要不急の外出を控える、仲の良い友人同士の家庭間の行き来を控える、家族ぐるみの交流による接触を控えるなど、学校を通じた人間関係の中で感染が広がらないよう細心の注意が必要。

(「学校の新しい生活様式(文部科学省2020.12.3)」より)